

氏名 安井 伸顕

主論文審査の要旨

ギリシアのペロポネソス半島にある古代都市遺跡メッセネでは、古代広場の跡からメッセネ神殿と呼ばれるドリス式神殿が出土した。本論文は、その出土遺構を直接調査することにより得られた資料に基づいて、建築的復元を行なった研究論文である。古代ギリシア建築の研究は、19世紀以来欧米の研究者による長い歴史があり、従来日本の研究者はその後塵を拝するのみであった。西洋建築の淵源が古代ギリシア・ローマ建築にあるのは言を俟たないが、ギリシア神殿という正に西洋建築の始原に関する研究が、現地調査に基づいて今回のようなオリジナルの研究が行なわれたことは、大きく評価されてよい。

第1章では研究の目的や方法、ギリシア建築の神殿の研究背景について述べられている。第2章では発掘された遺構について、その概況をはじめ出土した各部材について、その形状、寸法、材料等について建築的に詳しい報告が行なわれ、同時に部材の分類整理そして分析と考察が行なわれている。第3章が本研究の中心部分であり、出土遺構の分析に基づいて神殿外側の周柱部分の平面を復元し、さらに内陣の壁を構成する個々の部材の考察に基づいて、その全体的平面と出土した各部材の配置について、推論を進め復元を行なった。そしてメッセネ神殿が正面6本側面12本のドリス式神殿であること、そして内陣は前室、主室、後室の3室からなり、前室及び後室には2本のドリス式内部円柱が配置されていたことを明らかにした。第4章は神殿の立面に関する考察で、円柱の部材が1本分丸ごと残っておらず明確な立面の復元ができないため、他の同時期の神殿の比例を研究しながら、妥当な円柱の高さを推定した。それにより、ほぼ合理的な形での立面の復元図を作成することができた。神殿の年代は出土した考古遺物により紀元前4世紀末頃であろうと推定されており、この時期のドリス式神殿としては希少な例で、その意味でも研究の意義は大きいものである。安井伸顕氏は、本論文の内容とともに総合理解力の試験においても、最終審査の結果として十分な能力があると認められる。

審査委員	環境共生工学専攻	人間環境計画学講座	担当教授	氏名	伊藤 重剛
審査委員	環境共生工学専攻	人間環境計画学講座	担当教授	氏名	伊東 龍一
審査委員	環境共生工学専攻	人間環境計画学講座	担当教授	氏名	位寄 和久
審査委員	環境共生工学専攻	循環建築工学講座	担当教授	氏名	村上 聖